

## 令和7年度 市長とセットトーク意見交換要旨

開催日：令和7年11月17日（月曜日）19時～20時

開催場所：邑久コミュニティセンター

団体・グループ名：パトリシアねっとわーく

テーマ：教育・文化（瀬戸内市立図書館について、公園や芝生広場の提案など）

### ★意見交換要旨★

・瀬戸内市立図書館（以下、「市立図書館」）について、市長はどのように考えられているか  
まず話を伺いたい。

（市長）

市立図書館は人が集うとても素晴らしい場所と思っている。公営の図書館は設立や運営について意見が分かれることが多い。図書館は収入がないのに本の購入費用などで永続的にコストがかかることは良くないという意見、一方で地域の教育・文化を高めていく観点、人が集う場所の創出として必要だという意見があると思う。どちらの考え方も大切だと思っており、質と効率、両方のバランスをとりつつ、どうすれば永続性を担保できるかを考えていきたい。これからも市民の皆さんに喜んでいただけるような場となるよう取り組んでいきたい。

財政面でいうと、合併後20年間利用できる制度（合併特例債）があり、施設の建設費用などに使うことができたが、今年度で期限を迎える。今後財源をどのように担保し、どのように皆さんに喜んでもらえるまちづくりにつなげるか、しっかり考えていく必要がある。

今は情報を探したり学んだりする媒体や手段は、本以外にも動画やAIチャット機能など様々なコンテンツがある時代。図書館を利用する世代によって多様なニーズがあり、情報端末の整備・充実も必要になってくると思う。

まちづくりの観点から図書館について考えていることは、図書館はこれからも市内にあるべきだと考えている。市では「人が集い、手取りが増えるまちづくり」をコンセプトに取り組みを進めている。市民の皆さんからの様々な要望や声に応え実現するためには結局何が必要かという、まずは人が増えること。そのためには移住・定住・観光にさらに投資し、わくわくするようなまちづくりを進めていかなければならない。瀬戸内市は若い世代の流入も増えている。選ばれる魅力のあるまちなので、その強みを生かして今後も魅力発信に力を入れ、さらに流入を伸ばし、人が集うまちの実現を目指す。

・市立図書館2階に学生・社会人のための自学専用のスタディールームがあるが、利用対象者は市内に在住・在学・在勤する人に限定されている。その他のカウンター席などは市外の人でも利用可能となっている。試験前などは開館前から行列ができており、多くの学生などが勉強用のスペースとして図書館を利用していることがわかる。「本を読まないのに図書館を利

用している」と快く思わない人もいるかもしれないが、こんなにも若い人がたくさん集う図書館は他にはなく、強みだと思うので大切にしていきたいと思っている。

(市長)

スタディールームの利用については様々な意見をいただく。移住者獲得・人口増加を目指す観点からいうと、邑久高校の学生をはじめ市立図書館を利用してくださっている人は、まず頻繁に瀬戸内市に来てくれていること自体がありがたいと思う。なるべく関係人口を増やしていきたいので、できる限り排斥せず受け入れたいと思っている。

・市立図書館で勉強すると集中できて捗るのでとてもよかったという声を聞いた。図書館をはじめ、瀬戸内市は施設が充実していると近隣市の人に言われて、図書館ができてから、いまちに育っていると実感した。

(市長)

これからどこに住むかを考える子育て世帯は、教育環境を重視する。地域ごとの学力テストの点数を上げていきたいとも考えているが、そのためには自宅以外でも学習できる環境のバックアップ体制が整えられていることがあるべき姿だと思っている。

・公立の小・中学校の教師をしているが、生徒を見てみると、ネット上から情報を取り入れるのは上手いが、書籍から読み取ることが苦手のように思う。本が家庭にない人もいるので、図書館に行けば、情報を選択する力が身に付くと思う。

(市長)

図書館であれば本が読み放題なので、家にある本に限らず知識を広げられるのはとてもいいことだと思う。図書館には小さい子ども向けの紙芝居などもあるので、子ども同士の交流が生まれる場にもなると思う。

・今後の図書館をどのようにしていくか、自ら企画・運営・マネジメントできる館長を公募で募ってはどうか。先の時代を見通せる人材、自由に動ける人材が必要だと思う。

(市長)

公募で民間経験者など広く人材を募ることについては内部からも様々な意見がある。外部からの人材が市政に参加することなく市の職員がマーケット感覚を理解し、先を見据えた運営ができるのであれば必要ないが、内部の人材のみでできることに限界がある場合は必要な手段だと思っている。

・市民の身近なところに芝生の公園・広場を作ってほしい。他のまちを見ても思うが、芝生がある場所は憩いの場となっているし、開放感がある。市立図書館は、小さいが芝生があるおかげで、かなりの開放感がある。ゆめトピア長船の敷地内の一部にでも芝生のオープンスペースができれば人が集まると思う。

・新たに公園を整備する方法以外に、地域住民が管理する財産区所有の公園や、現在は市が管理していない古い公園や広場を活用する方法があると思う。

(市長)

公園を作ることについては、維持管理費が発生し財政負担が増えるということも念頭に置いて議論する必要がある。

ゆめトピア長船の敷地内へ整備を検討していた「こどもパーク」は、財源としていた国の交付金の要件変更を受け計画を見直すこととなった。そのため、たくさんの要望をいただいている「全天候型の遊び場」を官民連携で整備できるよう、市の補助金で初期投資を支援することなどを民間企業へ提案し、検討してもらっている。民間企業に芝生のスペースを作ったり、土日だけでもエア遊具を置いてもらったりするなど、官民連携で色々な場所へ小規模な遊び場を作っていこうと考えている。全額市の負担で開催すると莫大な予算が必要になるので、官民連携で進めたいと考えている。

・岡山県の公立高校においては学区が分かれており、また一部の高校では学区外からの受け入れ枠が募集定員の5%となっているが、瀬戸内市に住んでいる人・移住してくる人の懸案事項にならないようにこの学区制や枠をなくすことができないか。

(市長)

「人が集い、手取りが増えるまちづくり」の核となるテーマの1つに挙げている。学区制の撤廃ができない理由としては、中心部の高校に志願者が集中し、地方、県北から高校がなくなる可能性があるということで、強く反対する自治体もある。

しかし、通学圏というのはできれば30分、長くても60分以内に収めるべきという考えでいうと、瀬戸内市内の高校生が電車を乗り換えるなどして東備学区の高校へ通うよりも、30分圏内で行ける高校を選択できる学区にしてあげるのが理想だと考える。

瀬戸内市に住みたいのに、学区のことが原因となり諦められるのが一番残念なこと。県が学区編成を行うタイミングにあわせて、瀬戸内市を岡山学区に入れてもらえないか要望したいと考えている。